

編集室から

年度末のバタバタで、今月のニュース発行が送れたため、新しい元号が発表された後となりました。

日本語としての意味や出典からの意図は、平易で分かりやすく、親しみがありませんでした。ただ、外国の報道で、その意識を見ると「令」をorderとしているものがあり、些かの違和感を覚えたのは私だけでしょうか？

手元の電子辞書の漢和辞典によると「令」は「清らかで美しい・相手の妻兄弟姉妹を尊んで言う：令嬢・令室」となっていて「神のお告げ・君主のお達し：勅令・法令・律令」とあります。新元号の意味としては前者なのですが、後者の方を訳してしまったためでしょう。

かく言う自分も最初に耳にしたときは、後者のイメージが強く内心「？」でしたが、調べてみて納得致しましたので、外国の報道では無理もないことなのかもしれません。

少し大げさかもしれませんが、一方で「諸外国から分かりにくい日本」と、それに伴う誤解が解けない理由も、この辺りに潜んでいるような気もしています。

インバウンドへの備えとして、観光情報の翻訳という際に、どうしても日本語を外国語にそのまま訳そうとする例が殆どです。それだけだと今回の新元号の外国語訳のように、どうしても真意との乖離が起こり、理解されない・意味が判らない文章となってしまう。

我々の当たり前が、彼らの当たり前とは全く違うということを、私たち自身が先ずハラに落とせていなければ、相互理解は進まない。というのが、国際化の本当の難しさなのではないでしょうか。

世界で唯一、元号を使い続けている日本。その独自性・文化性を世界規模で発揮するには、ここを越えてゆく必要があります。（は）



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川島さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00～23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラーザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2019/04
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>
〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

2019/04
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

卯 月



下賀茂神社にて
by hama

前回から蛋白質の話に入りましたが、言われるほど良いことばかりではないと判っていただけでしたか？。前回のまとめを再度お示しします。

蛋白質を摂取しても、運動しなければ筋肉にはならない

余った蛋白質は、作り変えられて脂肪になる
蛋白質を摂ると、ほぼ確実に脂質と一緒にいつてくる

こうしてみると、くどいようですが最も大切なのは、摂取するエネルギー量を適正に保つ事なのです。蛋白質の話は、ここから先になると細かい事になってきて、私が大切だと思っ内容から外れていつてしまします。それで食物の話はこれくらいにして、私の専門である糖尿病の話へと入っていきしたいと思います。

炭水化物の話をはじめたのは「その七」からなので、二年近くも食物の話をしてきたことになります。その理由は、糖尿病治療にとって食事が最も大切だからです。糖尿病になってしまったら治療法は三つ、食事療法と運動療法と薬物療法です。私の勝手な考えですが、その重要度の比率は、

食事：運動：薬物 〃 七：一：二

だと思っています。その点を納得していただくために、これから糖尿病という病気のメカニズムをできる限り判りやすく解説していきます。

まず最初に、二人のプロスポーツ選手を取り上げます。白黒の方は、懐かしい元大関・小錦です。

そしてカラーの方は、最近出番は少なくなりましたが、まだ現役の阪神タイガース・岩田稔投手です。小錦は、あれだけ肥っつていながら、糖尿病ではなかったそうです（血液検査を見た訳ではないので伝聞の域を出ませんが、少なくとも糖尿病が悪ければあんなに肥ることはできません）。ですが彼は命の危機を感じて、胃を切り取った上に小腸まで短くする手術を受けました。おかげで、体重は三百kgから半分以下になったそうです。何がそんなに問題だったのでしょうか？



それに対して岩田投手は、自ら1型糖尿病であることを公表しています。彼は大阪桐蔭高校の出身ですが、高校二年の時に発病したそうです。1型糖尿病は、原因は未だによく判っつていませんが、風邪などがきっかけで自分の免疫システムに誤作動が生じてしまい、インスリンを作る細胞（膵臓のベータ細胞といいます）を攻撃して体内でインスリンが全く作れなくなつてしまっ病気です。今の医学では、もう一生治ることのない糖尿病です。今も彼は生きるために、一日四回のインスリン注射を続けています。



【プロフィール】
（いがき としお）金沢大学北潟寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とつても怖かった…。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松でヌクヌクしています。

濱のつぶやき 『起業塾 序』

元号が新しくなる。本欄も今月から「社会事業を興す起業活動」についての連載にしたい。

会社勤めを三年ほどした後、最初の会社を立ち上げ、その十年後、また新たに現在の会社を立ち上げた自身の経歴に加え、地域づくり・街づくりなども含めて、多くの社会的事業の起業現場に携わつてきた。

サラリーマンとして大企業に就職することが最高の目標だったのは、実は戦後、高度成長期の辺り以降で始めて起きた社会現象で、この国の長い歴史をよく観察すると、サラリーマン天国であったのは実はほんの一瞬の間だけのこと過ぎないようだ。つまり、この時期を除いて日本は、起業家・起業家精神に溢れていたともいえる。

物理的な表現として残る文化芸術作品ならば、時代の流れ・気質のようなものも後世から眺め渡すことができるが、起業家精神のようなものは、後世から眺められるものが極めて限られている。精々が回顧録や社史・ドキュメンタリーといった物だろう。

一方で、起業活動は、その時代の意識・流れの中に

しか必然性が存在しない。それらも併せて語られなければ、活動そのものの価値すら理解しにくい。

戦後すぐの時代まで色濃く続いていたこの国の起業家精神を、後世となった今日から測り知ることが難しいのは、このような理由に因ると思う。

ITやAIを始め、社会環境の技術的変革が進んでいることもあり、起業活動を取り巻く支援情報は百花繚乱のごとくである。本欄も、その一つに過ぎないのではあるが、大きな鳥瞰的視点から見つめなおすことで観えてくるものがある。それらを提案していきたいと思う。

先月号まで毎月、二百十九回にわたつて本欄で綴つてきたこともある意味、起業現場からの想いだつたが、それをもう少し体系的に綴つていくことになる。各地から招聘頂いた講演会・セミナー・シンポジウムなどで語り・伝え・コメントさせて頂いてきたことを解放系の媒体でもお伝えし、より善き起業現場を創るために、みなさまと一緒に考えていきたいと願っている。

元号が変わる次月号から、スタートできることも、何かのご縁なのかも知れない。

本号では、グループワークのメンバー構成について述べてみたい。

大学の授業で行う場合、年齢や経験、学力がほぼ同質のメンバーでグループを組むことになる。ただし、小中高生とは異なって出身地が多様であり、特に本学の場合、県外出身者がほぼ半数を占め、東京都、愛知県、静岡県、長野県など、都市化の度合いや気候、食文化、そしてライフスタイル等が大きく異なっているところから福井へ来た学生が数多く存在している。年齢は同じでも、経験のバックボーンが異なるため、考え方が違ってくるのだ。また、私が担当する一般教養科目には、経済学部、生物資源学部、海洋生物資源学部、看護福祉学部の学生が集うため、得意分野や興味分野といったバックボーンもまた異なっている。

グループワークのメンバー構成は、議論の活性化やアウトプットの内容に大きく影響する極めて重要なポイントである。年齢や性別、職業、地域等が比較的同質なメンバーで行う場合、与えられた課題に対して共通認識が早期に形成され、すぐに本題へ入ることが可能であり、掘り下げられたアウトプットが生まれる。一方で、既存のやり方や経験から生じる先入観に、グループ全体がとらわれがちになり、現状の延長線上にある壁を超えることができず、新しい発想に乏しいアウトプットになる恐れもある。

それに対して、年齢層や性別、職業、地域等が比較的異質なメンバーで行う場合、知見や経験、そしてそれに基づく視点が多様になるため、面白い化学反応が生まれ、同質メンバーによるものと比べて奇抜なアイデアや多面的な構想が提示されることが多い。ただしこの場合、浅いアウトプットにとどまることもまた多くなる。初対面かつこれまでの経験等を異にするメンバーが、その間に存在する壁を取り払って本音で多様な視点をぶつけ合い、従来の枠組みにとらわれずに本質に迫るには、十分な“ほぐし”の時間が必須となる。

ということで私が授業で行う場合、性別と出身地をできるだけ混ぜた上で、早めのフィールドワークで仲良くさせることが定番のやり方となっている。できれば早めのバーベキューが最も効果的なのだが、シラバスに書けないのでここ数年は止めている。

この原稿が出るころには新元号が公表されていることと思います。幼少のころ祖母が明治～大正～昭和と生きていることを自慢していたのを覚えています。まさか僕自身も46にして3つの時代を生きることになるとはと、そんなことで祖母を思い出すこの頃です。

明治時代以降、元号は「一世一元の制」になりましたが、それ以前は一代天皇のもとで何度も変わっているようです。一番長かった元号は昭和の64年ですが、

＜一番短かったのは？＞

「暦仁（りやくにん）」のおよそ2か月です。時代は1238年-1239年で鎌倉時代で北条家が実権を握っていた頃です。『百鍊抄』という文献によれば、世間では「暦仁＝略人」すなわち、この世から人々が略される（＝死んで消えてしまう）とする風評が発生したために改元を実施したという記載があります。

＜平安時代は天変地異で改元＞

平安時代は380年の間で87回もの改元がされています。そして一代の天皇で複数の改元が見受けられます。その理由の多くが天変地異・疫災とあります。時代は藤原家が摂政関白を務めきらびやかで華やかな京文化が生まれたころ、しかしその裏では国を統治せず飢餓や民衆の生活は困窮を極めた時代でもありました。それを天変地異と片づけ元号を変えることで解決を試みるとは何とも言い難い。

＜一代で最も改元を行った天皇は？＞

室町時代の後花園天皇が在位された34年間で7度改元をされています。後花園天皇は足利義満による皇位篡奪（皇位継承資格がないものが天皇の地位を奪う事）未遂以降、皇権を回復させた「中興の英主」と評され、現在の皇室系統の祖ともいわれる方です。何故7度も改元がなされたのか？という理由に関しては、辛酉革命（辛酉とは天命が改まる年とされ、日本において辛酉の年に改元するという習わし）や甲子革命（60年に一度政治上の変革が起こるという思想）などがあるようですが、足利家の力が衰退をみせ各地では幕府政治への不満から土一揆が起こり、それら民衆を武装させた守護や豪族が力を持ち始めたこの時代、ひとつの国をまとめられない苦しさを感じていたのではないのでしょうか。代表的な句に「思へただ空にひとつの日の本に又たぐひなく生まれ来し身を」があります。[通釈]ひたすらに思う、空に太陽がたった一つだけあるように、天下に一つだけの日の本の国で、さらにまた類無い立場に生まれて来た我が身の一つになれない世を憂うとともに、天皇という立場でありながら日の本の国をまとめる権力がない事に対する忸怩たる思いが伝わります。

元号の歴史のさわりを見るだけでも時代背景と重ねて当時の政権者の気持ちを想像してみたり意外と楽しいタイムスリップができそうです。そして改元の多くが天下泰平を望む気持ちが理由となっています。いま私たちが住む現代においても、新たな元号が世界の平和と子供たちの幸せを願うものでありますように。

『富士の国から ~大魔神のたび~』中国先進企業視察ツアー 2019.2.27~3.1
静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

静岡県と中国浙江省友好提携事業「中国先進企業視察ツアー」のチラシを目にした。

県と浙江省が友好関係を結んだのが昭和57年、翌年小生は県に入庁した。今では浙江省は経済的に大きく発展し、友好を申し出るような対象ではないだろう。当時、お互いがお茶の産地である関係で提携を結んでいる。その事もあってかヤマハはじめ県内企業の進出が進んでいる。

チラシによればこのツアーを企画した県内大学生が参加するとある。日本ではまだまだのスマホ決済、顔認証、無人コンビニ等が中国ではここ数年で達成している。それを視察にビジネスマンといっしょに参加しようという企画だ。面白いに違いないと早速申し込んだ。

2月27日11時40分の集合に少し遅れてついた。空港が様変わりしていた。平成21年に開港した当時、コンパクトにつくった空港がインバウンドの急増により手狭になり大改造をしたのだ。フードコートができ、売店も、団体ツアー、レンタカー、観光案内カウンターいずれも広く充実していた。

中国東方航空には乗り杭州空港には3.5時間を経て到着。雨だった。着いてから空港出るまで一時間、入国手続きにここまでかかったのは初めて、こちらにもテクノロジー活かしてよと言いたい。ここからバスで杭州に向かうと、そこには静岡県人会の人たちと会食が予定されていた。県の上海事務所の石井所長、ヤマハ、デンソー、天野海槽店の方が迎えてくれた。杭州料理を前にアルコール軽めのビールで乾杯、紹興酒も出てきてこの夜の会食となった。

先進企業視察はまずはアリババから。創業1999年わずか20年でグローバル企業へ。代表のジャック・マーは外人相手の中国ツアーガイドをしていたという。

氏が興した会社は今では「征服者(コンキスタドル)」と呼ばれ



る。ネット通販から医療、金融、交通などへ事業領域は広がり、中国での生活を変えつつある。

中国の都市の渋滞はひどい。この解決にと道路各所に付けられたカメラにより渋滞の状況把握、そこから信号のコントロールをする。救急車出動とあらば、現場までの緊急通行確保のための信号機コントロールをするという。

どこの誰がいつ何の買い物をしたというデータの集積から各店舗の品揃えの管理をする。個人情報何のその中国だからという点はあるけども、巨大人口の暮らしを今ある社会資源を最低限有効に活用して豊かな生活を実現する目的には叶っている。

アリババの実店舗に行くと現金決済カウンターはわずか一つあるけども、多くはセルフレジだ。無人化準備中のコンビニも見た。店入り口にスマホをかざして個人を特定、出るときには何を買ったかが全て把握され、買い物をした意識さえなく店を後にする。そんなイメージでいたが、この店ではそこまではなっていない。中国人客はスマホから決済している程度。

現金から解放されれば、レジを閉めた後の売り上げと現金が一致しているかのチェックはいらない。飲食店でも注文はすでにパネルからのチェーン店はいくつもあるが、支払いは現金対応のためか有人だ。消費税アップ時にキャッシュレス化を目指すことにしている日本の今後の変化に期待したい。(つづく)

